

空気より軽い12A・13Aガス用

ネットワーク機能付き

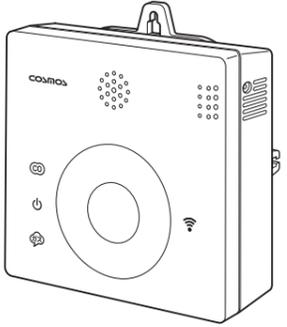
家庭用

ガス・CO警報器

型式名 XW-755

施工説明書(施工される方へ)

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。



1 お願いとご注意

警報器を正しく設置していただくため、また、あなたやお客さまへの危害や財産への損害を未然に防止するために、この施工説明書にはいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

2 施工される方へのお願い

●警報器を更新する場合は、交換前の警報器の電源プラグ部分について以下の確認を行い、お客さまに正しい取扱方法を説明してください。

①電源プラグが曲がっていないか
曲がっている場合は、電源プラグに大きな力を掛けないようにしていただくことを説明。

②電源プラグ部分に水分やほこりがかかっているか
電源プラグ部分に水分をかけないこと、ほこりがかかっている場合は取り除いていただくことを説明。

●取付終了後に施工説明書に従って「6-1 設定の手順(人感確認、ルーター接続、自動初期点検)」「6-2 サーバーとの通信点検」、および必要に応じて「6-3 作動点検」を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。

●必要に応じて、「3-1 警報器の説明」「3-2 お客さまへの周知事項」についてお客さまに説明を行い、ご理解を得てください。

●警報器を梱包から出された状態で持ち運びまたは保管しないでください。

注意

警報器本体や電源プラグには、落下などの強い衝撃を与えないように、取り扱いには十分に注意してください。故障や誤作動の原因になります。

3 お客さまへの説明について

3-1 警報器の説明

- ①警報動作および自動初期点検機能の結果の説明。
作動点検をした場合は、作動点検の結果の説明。
- ②取扱説明書を必ず読んでいただくこと。取扱説明書を保管していただくことをお願い。

③取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。

- 1.ガス警報の内容(赤(ガス警報)ランプ点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
- 2.CO警報の内容(黄(CO警報)ランプ点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
- 3.ガス警報、CO警報の同時警報の内容(赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプの点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
- 4.部屋の外にいて、ガス警報、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
- 5.サービス情報が受信できない、または配信されない場合(青(通信)ランプ)に関する原因と処置の説明。
- 6.サービス情報の内容(橙(お知らせ)ランプのリング点滅、音声合成音の確認)の説明。
- 7.誤報が発生する原因と処置の説明。
- 8.スイッチ操作の説明。
 - 警報音停止
 - 有効期限切れ音声機能
 - 警報器の本体機能に関する点検(動作点検、警報音の確認)
 - サービス情報を配信するサーバー(以下、サーバー)との通信点検

④サービスに関する説明と同意確認。

- 1.お客さまがお持ちの通信環境(インターネット回線、ルーターなど)、情報端末(スマートフォン・PCなど)を使用すること。これらの使用に関する料金はお客さま負担であること。
- 2.サービスの利用開始にあたり、設置した警報器をサーバーと紐づけるために、お客さまの情報端末でご自身の情報を登録する必要があること。
- 3.サービスを使用するために、警報器の情報(稼働状況、検知・感知したデータ)がお客さまの通信環境を経由して自動的にサーバーに上がることに。

3-2 お客さまへの周知事項

- ①保証期間5年。
- ②警報器の有効期限のお知らせ。
(本体に貼付の有効期限ラベルに表示)
- ③保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④警報器の移設禁止。(移設依頼時の連絡先)
- ⑤警報器の分解禁止。
- ⑥引越時の処置。
- ⑦故障・異常時の連絡先。
- ⑧廃棄の際に必ずネットワーク情報の初期化を行っていただくこと。(取扱説明書P.11参照)

4 取り付け前の確認

4-1 警報器の確認

取り付ける警報器が空気より軽い12A・13Aガス用であり、本体、電源コードに異常のないことを確認してください。

4-2 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

本体…1個	コード振れ止め…3個
木ねじ 長さ16mm…1本	ピン 長さ20mm…10本
取付フック…1個	取扱説明書(保証書付)…1枚
	施工説明書(本書)…1枚

4-3 取付位置の確認

設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。

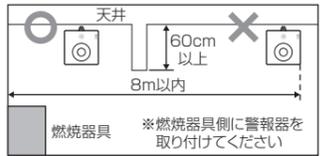
注意

正しい取付位置に取り付けてください。

- ・取り付けられない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。
- ・無線通信や人の動きを感知ができない場所に取り付けられていると、適切なサービス配信が行えない原因となります。

正しい取付場所について

- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑(電源)ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用するガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が30cm以内の位置に取り付けてください。
- 天井面が60cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



【無線通信について】

- ルーターと適切な通信を行うために、警報器とルーターとの距離を近づけたりアンテナの角度を調整するなど、通信環境を良くしてください。
- ルーターには接続台数の制限がありますので、ルーターの取扱説明書などをご確認いただき、接続数の上限を超えていないことを確認してください。
- 周囲に、電子レンジなど電波干渉を起こしやすい家電製品などの障害物がある場合は、障害物を移動するなど見直しを良くしてください。

取り付けてはいけない場所について

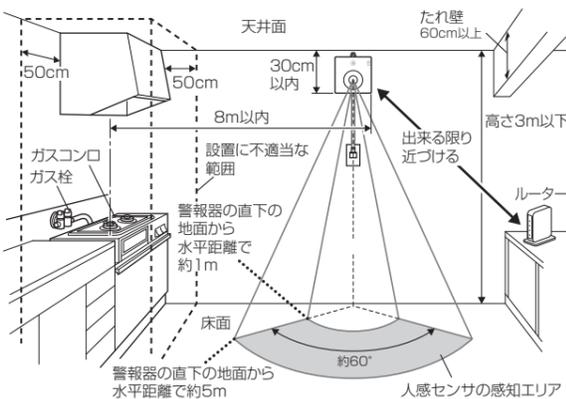
以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。

- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。
アルコール等で警報することがあります。
- 30cm以上(警報器含)のたれ壁などの下。
警報が遅れたり、検知できないことがあります。
- たれ壁60cm以上で区切られている場所。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。
警報が遅れたり、検知できないことがあります。
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
センサー寿命が短くなったり、誤報の原因になります。
- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
- 使用時でないと電源を入れない場所。
警報器としての機能を果たしません。
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
警報が遅れます。
- 振動、衝撃の激しい場所。
センサの故障の原因になります。
- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所。
感電や電氣的故障の原因になります。
- 温度が0~+50°Cの範囲をこえる場所。
警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。
- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。
警報が遅れることがあります。
- 業務用・工業用。
家庭用です。業務用・工業用ではありません。
- 屋外。
屋外では使用できません。

【人感センサについて】

- 人感センサは、周囲温度と動いている人物の温度の差を感知しています。警報器周辺の温度が高い(30°Cを超える)場合は、人の動きを感知しづらくなります。また、立ち止まっていたり、動きが小さいと人の動きを感知しない場合があります。
- 人感センサの感知エリアを考慮して警報器を設置してください。
人感センサの感知エリアは、警報器の直下の地面から水平距離で約1~5m、左右約60°です。
- 高さ3m以下に設置してください。
- 警報器の前方に障害物があると検知しないため、人の動きを感知したいエリアには障害物を置かないようにください。
- 人感センサの特性上、感知エリアを人が横切る位置に設置すると、人感センサの感知信頼性がより向上します。
- 警報器に向かって人が近づくような位置に設置すると、警報器のごく近くまで人が近づかないと感知しない場合があります。

■取付例 ※天井面に接近して取り付けると、天井面が黒ずむ場合があります。



5 取り付けかた

5-1 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に有効期限の年月を記入してください。



5-2 警報器本体の取り付け

注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。
- 警報器の取付時に、警報器を落とさないように注意してください。センサの断線など、正常に作動しない恐れがあります。

付属の取付フックで取り付ける場合(石膏ボード壁専用)

注意

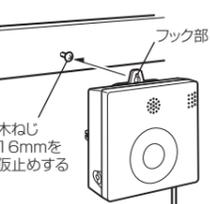
- ピンを指に刺さないように、取り扱いには十分注意してください。
- 取付フックにピンを差し込むときは、穴が硬いので十分注意してください。
- 取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。
- 万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

- ①取付フックを壁面に押し当て、位置決めピンを垂直に打ち込む。
- ②取付フックを垂直位置にした状態で、取付フックの固定ピン(左右2箇所)を斜めに打ち込んで固定する。
- ③本体のフック部を、取付フックに引っかける。



木ねじで取り付ける場合

- ①木ねじ(16mm)を途中までねじ込み、仮止めする。
※コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグ(φ3.1mm木ねじ用)を打ち込んで木ねじを使用してください。
- ②電源コードをコンセントまでの長さに合わせて取り出す。
- ③仮止めした木ねじに、本体のフック部を引っかける。
- ④木ねじを締め付け、本体を固定する。

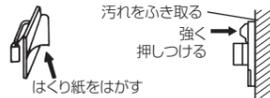


5-3 コード振れ止めの取り付け

注意

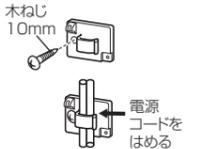
- 電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。
- 電源コードに重いものを置かないでください。

- ①コード振れ止めのはくり紙をはかし、壁面に貼り付ける。



接着だけで取り付けできない場合

- ②木ねじ(10mm)を使用する。



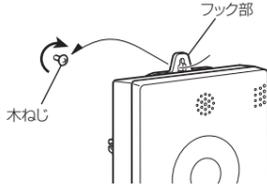
- ③電源コードをコード振れ止めにはめ込む。

■既存の取付板から取り付ける場合

- ①上側の木ねじを5mm程度ゆるめる。
- ②下側の木ねじを取り外す。
- ③取付板を取り外す。



- ④警報器のフック部を上側の木ねじに引っかけて、木ねじを締め付け、警報器を固定する。



6 取り付け後の確認・点検

この警報器は、通電開始後の約30秒間でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。製造から取付までが1年以内の警報器(警報器の製造番号シールに記載の製造年月から取付年月までが1年後の同月まで)で以下の条件を満たす場合は、「6-3 作動点検」は不要です。「6-1 設定の手順(人感確認、ルーター接続、自動初期点検)」「6-2 サーバーとの通信点検」を行ってください。

ただし、お客さまから要望があった場合は、「6-3 作動点検」を行ってください。

- 新規取付時(未入居の新築住宅を含む)
- 更新時

以下の場合には、「6-3 作動点検」が必要です。「6-2 サーバーとの通信点検」の後に「6-3 作動点検」を行ってください。

- 製造から取付までが1年を超えた警報器

6-1 設定の手順(人感確認、ルーター接続、自動初期点検)

この警報器は、警報器の警報停止スイッチを押しながら、電源プラグを差し込むことで、人感センサの感知範囲確認と、ルーターとの接続(異なるルーターへの再接続を含む)、自動初期点検を行うことができます。

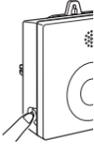
おねがい

「1.」～「4.」の設定を行っている間は、作動点検を実施しないでください。

1. 設定モードの立ち上げ

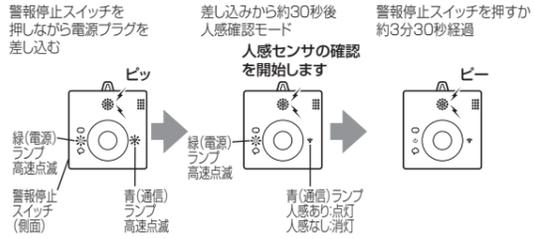
- ①警報停止スイッチを押しながら電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ②そのまま3秒以上警報停止スイッチを押し続けると、「ピッ」とお知らせした後、緑(電源)ランプと青(通信)ランプが高速点滅します。スイッチから手を離してください。

※以降の動作は一連の動作となります。一つの機能だけを選択して設定することはできません。



2. 人感センサの感知範囲確認

- ①緑(電源)ランプと青(通信)ランプが約30秒高速点滅した後、人感確認モードに入ります。人感確認モードでは、人の動きを感じた場合、青(通信)ランプが点灯し、人の動きを感じていない場合、青(通信)ランプが消灯します。室内を移動するなどして、感知範囲が適切かどうか確認してください。
- ②警報停止スイッチを約1秒間押すか約3分30秒経過すると、「ピー」と終了音が鳴り、「3. ルーターとの接続」へ移行します。



3. ルーターとの接続

〈ルーターの無線LAN設定ボタンを使用して自動で設定する場合〉

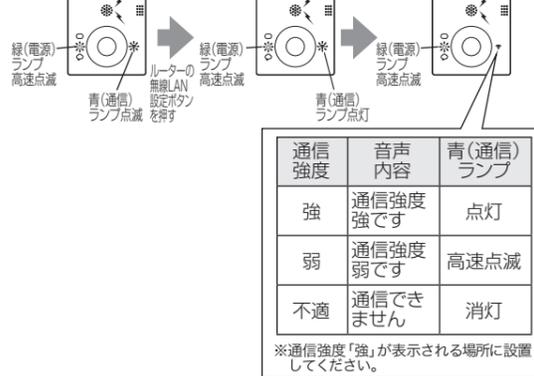
△ 注意

本警報器は2.4GHzの周波数帯の無線を使用しています。デュアルバンド(5GHzと2.4GHz)対応のルーターで自動設定を行う場合、本警報器がルーター側からのWPS信号を受信するタイミングによって、目的のSSIDとWPS接続できない場合があります。

※ルーターの無線LAN設定ボタンによる自動設定ができない場合は、情報端末を使用した手動設定を行ってください。

- ①緑(電源)ランプが高速点滅、青(通信)ランプが点滅し「登録を開始します自動設定モードです」が鳴ります。
- ②ルーターの無線LAN設定ボタンを押してください。
- ③警報器とルーターの接続が確立すると、青(通信)ランプが点灯し「登録が完了しました」と鳴り、ルーターとの通信強度が5秒間表示されます。ルーターの通信強度が「強」となる場所に設置するようにしてください。

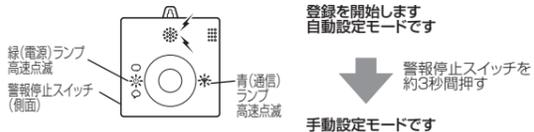
※登録に失敗した場合は「登録できません」と鳴ります。電源プラグを抜いて、再度、人感センサの感知範囲確認からやり直してください。



〈情報端末を使用して手動で設定する場合〉

警報器を一時的にネットワークのアクセスポイントにして情報端末と接続し、情報端末からルーター情報を警報器に入力することで、警報器とルーターを接続することができます。

- ①緑(電源)ランプが高速点滅、青(通信)ランプが点滅し「登録を開始します自動設定モードです」が鳴ります。
- ②警報器の警報停止スイッチを約3秒間押すと「手動設定モードです」と鳴ります。



- ③お手持ちの情報端末で「https://s.i-alarm.jp/」にアクセスしてください。接続先のページで「無線LAN設定」→「手動で設定する場合」を選択すると、設定画面が表示されます。
- ④情報端末の設定画面に表示された内容に従って、情報端末からWi-Fiで警報器を検索し、警報器と接続してください。警報器の操作が終了したら、情報端末で「次へ」を選択してください。

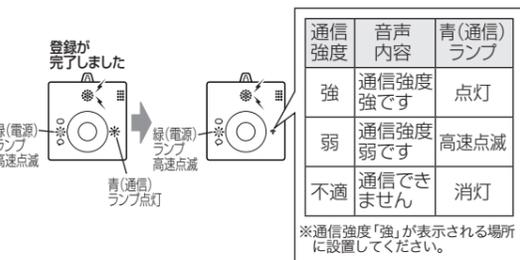


スマートフォンのネットワーク設定から「Wi-Fi」を選択し、周辺機器を検索 → 「ialarmAP」を選択する

タブレット、PCのタスクバーからネットワークアイコンを選択し、周辺機器を検索 → 「ialarmAP」を選択する

※お使いの情報端末の仕様によっては、周辺機器の検索方法が異なる場合があります。

- ⑤情報端末の設定画面に表示された内容に従って、情報端末の操作画面でルーターの情報(SSIDやパスワードなど)を入力してください。入力が完了したら、情報端末で「次へ」を選択してください。
- ⑥警報器とルーターの接続が確立すると、青(通信)ランプが点灯し「登録が完了しました」と鳴り、ルーターとの通信強度が5秒間表示されます。ルーターの通信強度が「強」となる場所に設置するようにしてください。



4. 自動初期点検機能の確認

緑(電源)ランプが点滅し、約30秒後にランプが全点灯した後、正常であれば、「正常です」と鳴って緑(電源)ランプが点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。万一、異常があれば、「故障です 販売店に連絡してください」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。



6-2 サーバーとの通信点検

6-1「1.」～「4.」の確認が終了し、警報器が監視状態になったら、警報器がサービス情報を発話することを確認するために、警報停止スイッチによる点検を行ってください。

- ①警報停止スイッチを約6秒間押すと「ピッ ピッピッ ピッピッピッ」と鳴り、緑(電源)ランプが点滅しますので、手を離してください。
- ②一定時間後、橙(お知らせ)ランプがリング点滅し、サーバーからのテスト音声がかかります。



6-3 作動点検

おねがい

この警報器は作動点検をスムーズに行うため、監視状態に移行後3分30秒間(電源プラグをコンセントに差し込んでから4分間)に限り、採取ガスに対して反応しやすい状態が保持されます。必ずその間に作動点検を行ってください。ただし、通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間(30秒間)は、ガスをかけてもセンサが反応せず、警報を発しないため、作動点検を行わないでください。上記時間を過ぎると、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されます。その場合は電源プラグを一度抜き、再度コンセントに差し込み直してから行ってください。また、上記時間内であっても一度作動点検を行うと採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されますので、ご注意ください。

〈準備するもの〉

- 点検ガス採取器(別売品)
- ガスライター



△ 注意

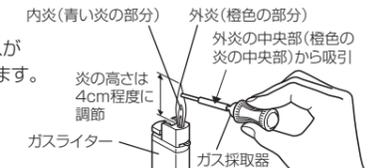
アルコールを主成分とした点検ガスおよびライター式の点検ガス(生ガス)は、使用しないでください。センサ異常またはセンサ故障の原因になったり、警報状態からの復帰に大変時間がかかることがあります。

〈点検ガス採取器を用いて点検する場合〉

- ①ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。

おねがい

炎が小さいとガスが採取しにくくなります。



- ②点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持っていく。
- ③容器の圧縮をゆっくり(約3秒程度)ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

おねがい

長時間加熱すると、ガス採取器が破損することがありますので注意してください。

- ④点検ガスの採取が終わったら、速やかに点検ガス採取器を炎から離し、ガスライターの炎を消す。

△ 注意

炎から出した直後の採取管は、先端が非常に熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。



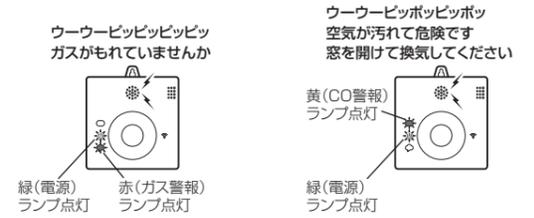
- ⑤採取管の先端部分の温度が下がるまで(約30秒程度)待つ。
- ⑥採取管の先端部分を警報器の点検口にしっかり押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約3秒程度)注入する。



△ 警告

採取したガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

- ⑦赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音(「ウーウーピッピッピッピッガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音(「ウーウーピッピッピッピッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴ります。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。



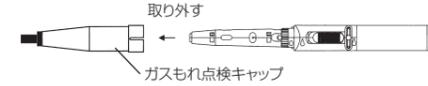
- ⑧ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。

おねがい

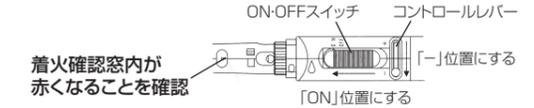
警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度差し込んでください。警報器の警報停止スイッチを押さずに電源プラグをコンセントに差し込むと、6-1「4.自動初期点検機能の確認」の動作から始まります。「正常です」の音声が鳴ることを確認してください。

〈火災・CO・ガスもれ警報点検治具を用いて点検する場合〉

- ①ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。



- ②コントロールレバーを「-」の位置に移動する。

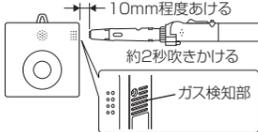


- ③ON-OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ「ON」の位置に移動する。※着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓内が赤くなります。(もし着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)

※カチッと音がするまでしっかりと押し上げてください。

- ④本体の先端を警報器のガス検知部付近に近づけ、約2秒程度ガスを吹きかける。

※10秒以上ガスを吹きかけないでください。本体および警報器を破壊・損傷する恐れがあります。



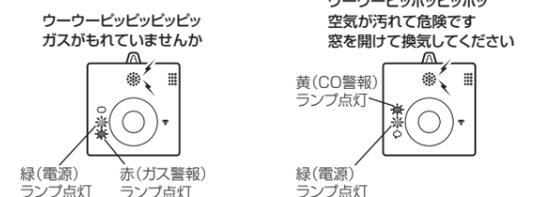
△ 警告

点検治具より吹き出されるガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

△ 注意

着火使用時には先端の樹脂部分は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

- ⑤ON-OFFスイッチを離す。※ガスが止まっていることを確認してください。
- ⑥赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音(「ウーウーピッピッピッピッガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音(「ウーウーピッピッピッピッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴ります。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。



- ⑦ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。

おねがい

警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度差し込んでください。警報器の警報停止スイッチを押さずに電源プラグをコンセントに差し込むと、6-1「4.自動初期点検機能の確認」の動作から始まります。「正常です」の音声が鳴ることを確認してください。